

まちの話題

The topic of the town



食は家庭の礎 家族の食を大切に

12月22日、串間市文化会館大ホールで社会福祉法人むつみ会主催の食育講演会「串間の皆さんへ今、伝えたいこと」が開催されました。第1部では東国原英夫前宮崎県知事が講演。第2部では「子どもがつくる『弁当の日』」の提唱者竹下和男さんが「食育と子どもの健全育成」一家だんらんの食事が育むもの」と題して講演し、「子どもにしてほしいことは、親がして見せればいい」と訴えました。この日会場を埋め尽くした約1,000人の市民は、2人の話に興味深く耳を傾けていました。



友好の願いをこめて 記念樹を植樹

1月8日、串間市に本所を置く南那珂森林組合（島田俊光組合長）は、友好組合の協定を結んでいる大阪府の大阪府森林組合（古川光和組合長）と北海道下川町の下川町森林組合（山下邦廣組合長）とともに、お互いの友好関係の発展・強化を願う一氏の市有地で友好の森植樹祭を開催しました。植樹祭では島田組合長、古川組合長、山下組合長と野辺市長が記念植樹をした後、各組合の職員約100人が組合ごとに分かれ、スギやイチヨウ、カラマツやトドマツなどの苗木を植え付けました。



串間の代表として 走り抜きました

1月9日、第1回宮崎県市町村対抗駅伝競走大会が宮崎市で開催されました。串間からは小学生・中学生・高校生・一般・40歳代・50歳以上で構成された串間市代表団17人が参加しました。大会は県内各市町村から34チームが参加し、県庁前をスタート・ゴールとする10区間、約42・3kmのコースで争われました。串間市チームの選手たちは寒空の下懸命に走り抜き順位は24位。走り終えた選手たちは「来年は今回以上の成績を残します」と早くも来年へ向け闘志を燃やしていました。



宮崎の畜産復興の1年 となることを願って

1月11日、南那珂地域家畜市場で子牛の初せりが行われました。せりに先立ち、はまゆう農業協同組合の蔵富英志代表理事組合長が「昨年は口蹄疫の発生でくじけそうになる場面もありましたが、たくさんの方の励ましの言葉で乗り切ることができました。今後も強い意志で復興に取り組みます」とあいさつ。関係者が鏡割りを行った後、参加者全員、お茶で乾杯しました。子牛のせりでは、冒頭、野辺市長や谷口日南市長など関係者が子牛を引いて登場。その後も次々と子牛たちが競り落とされていました。



海上自衛隊支援艦 「げんかい」が寄港

1月16日、海上自衛隊呉地方隊所属の多用途支援艦「げんかい」が福島港に寄港しました。午前9時に「げんかい」が入港し、9時半からは海上自衛隊艦艇協力が歓迎セレモニーを開催。串間特産の甘しょや焼酎などを贈呈しました。セレモニーの後には艦内の一般公開が行われました。操縦室などを見学したり、記念撮影をしたりするなど、ふだんは見ることができない「げんかい」の内部に、見学者たちは興味つきない様子でした。一般公開は16日も行われ、多くの市民が見学に訪れていました。



青少年が それぞれの思いを発表

1月16日、串間市文化会館にて串間市青少年の声を聞く会（主催・串間市青少年育成市民会議・串間市教育委員会）が開催されました。大会には市内の小中高校から推薦された19人が参加。自分の目標や環境問題、口蹄疫に対する思いなどを、それぞれの体験や考えをもとに発表。保護者や学校関係者は子どもたちの発表に耳を傾けていました。発表後、串間市教育委員会事務局の川崎主任指導主事から「将来の夢や希望、ふるさとへの思いなどが伝わってくる、すばらしい発表でした」との講評がありました。



6年間の人権擁護活動 ご苦労さまでした

1月17日、市役所にて人権擁護委員感謝状伝達式が行われました。感謝状を贈呈されたのは日高正子さん。日高さんは平成17年1月から平成22年12月までの6年間にわたって人権擁護委員として活動。子どもの人権SOSミニレターなどの活動を積極的に実施したほか、日常生活でもさまざまな相談活動を行ってきたことが今回評価され表彰されました。今後は市民の立場から人権擁護の活動に取り組まれます。また1月1日付で、森本明子さんと小田原基義さんの2人が人権擁護委員として委嘱されました。

